

架橋の夢が叶わなかった橋

—美濃田橋(美濃田観光橋)と池田橋—



吉野川に架かる橋フォトコンテスト／「春の大橋」(六条大橋)



美濃田観光橋跡



橋台の上に
造られた展望台



美濃田橋完成予想図(東みよし町教育委員会提供)



池田橋跡

—美濃田橋(美濃田観光橋)—

「みのだばし(みのだかんこうばし)……」

終戦直後、当時の足代村の発展を橋にかけた森金次郎を発起人として美濃田橋の架橋は「美濃田の湖」に計画された。当初は橋長150m、幅員2・9mの木橋を架ける計画であったが、その後、観光兼人道橋に変更された。美濃田の湖の川中に橋脚を建てて吊橋にし、開通後に工事に要した経費の立替金の支払いが終わるまで貸取り橋にする計画であった。

昭和29年(1954)に架橋工事に着手したが、工事半ばにして資金難に陥った。さらに、施工主の森金次郎が病に倒れ、勤労奉仕で労力を提供した地元の人々の願いも叶わず工事は中止になった。

残された左岸側の橋台は展望台として利用され、吉野川の川中に築かれた1基の橋脚が架橋の歴史を今に伝えている。

—池田橋—

「いけだばし」……

昭和6年(1931)、諏訪公園の眼下に池田町と対岸の箕蔵村を結ぶ貸取り橋が計画された。

橋長221m、幅員5・6mの橋梁は、昭和6年(1931)12月15日に県の認可を受け、同年(1932)2月2日に工事が着工された。

しかし、昭和8年(1933)夏、洪水によって橋脚2基のうち左岸側の橋脚が倒れて水没。

その後、右岸側の橋脚も倒れ、兩岸の橋台だけが残った。昭和10年(1935)には、架橋に尽力した当時の池田町長、田原作太郎も死去し、工事の続行は不可能になった。

その後、昭和12年(1937)に池田橋速成委員会が発足したが、これも立ち消えになった。吉野川に残された2基の橋台が架橋の歴史を伝えている。